

ゆとりの構造化に向けて (1)

一言葉と概念の整理—

西野 仁 (東海大学)

I はじめに

1998 年以来、ESM 調査をもとに高校生と中学生の「ゆとり」経験について、本学会で発表を続けてきた。その過程で、中高校生の「ゆとり」経験は、「選択の自由性と内発的動機」によって惹起された経験で、「さわやか」「ひま」「まんぞく」「うれしい」などの「ムードのポジティブさ」を伴い、「継続したい」と感じる比較的「簡単にできる」経験の総体として捉えられていることを明らかにした。社会心理学の手法を使って「ゆとり」経験の特質をとらえようとするこの研究は、今後も継続する価値と必要性はあるのだが、このアプローチだけでは、「ゆとりとは何か」というきわめて素朴な疑問には、十分答えることはできない。

そこで、ゆとり研究の次のステップとして「ゆとりの構造化に向けて」歩を進めることとした。そのためには、まず、「ゆとり」というきわめて日常で普通に使われている言葉が、本来どのような意味を持ち、どのような概念を内包しているのかを明らかにすることから始めることが順当であると考え、「ゆとり」という言葉と概念の整理を行うこととした。

もちろん、過去にこの試みがなされていなかったわけではない。昭和 28 年にスタートした東京大学公開講座は、70 回を迎えた平成元年、「ゆとり」をテーマに 10 回開催された。時を同じくして、産業構造審議会は、「ゆとりとゆたかさのある生活の実現」を産業政策の三つの目標の一つとして掲げ、それを受けて通商産業省は産業政策局長の私的懇談会として「ゆとり社会懇談会」を設置し、平成 3 年 5 月に、「ゆとり社会の基本構想」をまとめた。また、「ゆとりとは何か」という題名の書籍の発行もあった。これらの講座や構想、関連する書籍において、「ゆとり」という言葉の整理が、一部されてはいるのだが、十分であったとは言えない。記憶に新しい文部科学省による「ゆとり教育」の構想が、「ゆとり」の概念をさらに混乱させたように思われる。

「ゆとり」という言葉の意味と概念の整理をするために、まず、「ゆとり」という言葉そのものの意味や語源、英語訳、さらに定義や使われ方について、辞典や文献の記述を手がかりに探った。次いで、ゆとり概念とそれに含まれる属性・性質について検討した。これらの資料をもとに、「ゆとり」の特性についてまとめた。

なお、本研究は、文部科学省科学研究費補助「中高生の一週間の生活リズムと「ゆとり」の構造について：学校週 5 日制の実施前後の比較」と学校法人東海大学特別研究プロジェクト「レジャー（ゆとり）サービスシステムの構築」研究の成果の一部である。

II 「ゆとり」という言葉

1) 辞典にみる「ゆとり」の意味

わが国の代表的な国語辞典は、「ゆとり」を次のように説明している。

日本国語大辞典 2002,1,10 第二版第 13 巻 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部 編集 小学館

ゆとり [名] 物事に余裕のあること。窮屈でないこと。精神的なことについてもいう。余裕。くつろぎ。

学研現代新国語辞典 改定第三版 2002,4,1 金田一春彦 編著 学習研究社

ゆとり 《名》〔時間・金銭・気力などが十分あって〕きゅうくつでないこと。

広辞苑 1955,5,25 初版一刷、1964,8,1 初版第 13 刷 新村出編 岩波書店

ゆとり 余裕のあること。窮屈でないこと。くつろぎ。

大辞林 第 2 版 1995 三省堂

ゆとり：物事に余裕があつて窮屈でないこと。余裕。

新訂大言海 1955,3,1 初版 1976,4,20 50版発行 大槻文彦 富山房

ゆとり (名) 物事ノ間ニ寛^{クワ}ギヲ置クコト。ユルミ。餘裕。

大日本國語辭典 上田萬年、松井簡治 第四卷 初版 1919,12,18 金港堂書籍株式会社 富山房

ゆとり (名) 物事の間に餘裕のあること。窮屈ならぬこと。くつろぎ。

修訂大日本國語辭典 第五卷 1919,12,15 初版 1941,2,28 修訂版発行 1968,6,10

ゆとり (名) 物事の間に餘裕のあること。窮屈ならぬこと。くつろぎ。

新装版大日本國語辭典 第27版 上田萬年、松井簡治 富山房

ゆとり (名) 物事の間に餘裕のあること。窮屈ならぬこと。くつろぎ。

これらが示すように、大正年代から平成の今日まで、「ゆとり」は、「余裕があること」「窮屈でないこと」「くつろぎ」の3つの意味を有している。

2) 古語辞典での「ゆとり」の扱い

古語辞典で「ゆとり」という言葉をしらべると、「湯取り飯」の項はあるが、「余裕」「窮屈でない」「くつろぎ」の意味の「ゆとり」は見当たらなかった。

江戸語辞典 1991,9,30 大久保忠国、木下和子編、東京堂出版

ゆとり [湯取]の意味のみ

江戸時代用語考証辞典 1984,7,25 第一刷、池田正一郎著 新人物往来社

ゆとり [湯取]の意味のみ

角川古語大辞典 第五卷 1999,3,10 初版 中村幸彦、岡見正雄、阪倉篤義 角川書店

ゆとりめし [湯取飯]の記述のみ

これらの事実は、「ゆとり」という語はあったが、その意味は、現在とは異なっていたと推測できる。これは延広真治の余裕という意味での「ゆとり」という語は、江戸時代には一般的ではなかったのではないかという解釈と一致する。しかし、意味の違いはあれ、「ゆとり」の語は、次の辞典によれば、室町時代にもあったという。

時代別国語大辞典室町時代編五 2001,1,1 第一版 室町時代語辞典編集委員会 代表者 土井忠生 三省堂

ゆとり 必要を満たして、なお余る部分 「扱かけの内にもいよいよ手綱をゆとりなき様に、口に引きあひて乗べし」(弓張記)

3) 語源について

「ゆとり」の語の語源については、次にあげる大島の解釈が日本国語大辞典に紹介されている。

国語の語根と其の分類 大島正健

第三節 ユの類 二 ユ(寛容)の義より出でたる諸語の「ユトリは、ユタカより出でたる語にして、寛容なるをいふ。狭量なるをユトリナキと形容するが如し。ユツタリ(寛)は、ユトリに通ふ。」(第一書房 1941、p.371)

III 「ゆとり」の定義と使われ方

1) 政府刊行物に見る「ゆとり」の定義と使われ方

政府刊行物の中で「ゆとり」と言う語は、どのように定義され使われているだろうか。

通商産業省生活産業局

「ゆとり」とは余裕がある状態：各人が時間、空間などの面で精神的に充足していること。(通商産業省生活産業局編「ゆとりと豊かさ：ゆとりと豊かさに満ちた「生活重視」型社会をめざして」、1990)

ゆとりとは、心身に余裕や落ち着きが感じられ、精神的に余裕のある心の豊かさをさす。生活実感を踏まえ、分析目的の尺度として敢えて「ゆとり」を定式化すれば次式のように考えると考えられる。

ゆとり = f { (経済的ゆとり + 時間的ゆとり + 空間的ゆとり) × (精神的充足度) }

ゆとり施策の基本方向

- 1、時間的ゆとりの実現：休日休暇日数の増加、労働時間短縮
- 2、空間的ゆとりの実現：住空間の充実、快適性の高い職場環境の充実、都市公園、道路などの生活関連施設だけでなく、余暇生活の充実に向けて水準の高い文化、芸術、スポーツなど余暇関連施設を整備する
- 3、経済的ゆとりの実現

(通商産業省生活産業局編「ゆとり社会の基本構想」1991)

ここでの定義は、余裕があることが中心であり、「くつろぎ」の意味は、「余暇関連」という語に隠れ、表面には現れてはいない。

文部科学省

中央教育審議会は、「ゆとり」の中で、子どもたちに「生きる力」をはぐくむことを提言した。ここでの「ゆとり」は、余裕のある教育環境で、受験競争を緩和したり、週5日制を導入し、窮屈でない教育を実施することの意味である。それは、「ゆとり」の重要性に気付かせ、ゆとりあるライフスタイルを実現させようとするような教育の意図は含まれてはいない。

2) 「ゆとり」の英訳

日本語である「ゆとり」の語は、どのように英訳されているだろうか。英訳のある日本文献を調べた。

leisure

文例1 自由時間が拡大され時間的ゆとりがあるだけでなく..... (生活大国5ヵ年計画、経済企画庁編、p.4、平成4年)

not only free time and time for leisure will increase,..... (The Five-Year Economic Plan by Economic Planning Agency Government of Japan p.5,1992)

文例2 A key question in the popular debate is : how can Japan be an affluent (*yutaka na*) society, even a leisure (*yutori*) society, (The Material Child by Merry White, California Press p.139, 1994)

something to spare

文例 私の考えでは、それはゆとりのある状態であるというのが最もふさわしいと思う。..... しかし、なぜゆとりがあることが心に秘密のある状態にそうとうするかということは、必ずしも説明が容易ではない。(土居健郎「表と裏」弘文堂 1985,p.133)

In my opinion, the best way to describe it is as a condition in which one has something to spare..... But it is not so easy to explain why "having something to spare" (*yutori ga aru*) corresponds to the condition of having secrets. (The Anatomy of Self, by Takeo Doi, translated by Mark A. Harbison, and Edward T. Hall, Kodansha, 1985, p.115)

他に、latitude (Economic Planning Agency, 1989)、leeway (Foreign Press Center, 1993)、elbowroom(The Japan Times)、breathing space (Mainichi Daily News)などがあつた。

IV 「ゆとり」という言葉の持つニュアンス

「ゆとり」は、「余裕」、「窮屈でないこと」、「くつろぎ」、あるいは「leisure」などと、その意味は一樣ではない。「余裕」や「くつろぎ」などと言わずに「ゆとり」と表現するのは、意味にわずかな違いや微妙な特色があるからだと考える。それら「ゆとり」という言葉の持つニュアンスについて「主観性」、「保障性」、「肯定的価値性」、「自由裁量性」「相対性」から検討する。

主観性

ゆとりが「ある」か「ない」かは、主観に負うところが大きで、時間や金額など客観的な量では決定できるようなものではない。自由になる時間が多いから「ゆとり」がある、大金を所持しているから「ゆとり」

があるということには必ずしもならない。また、同じ時間をいつもゆとりと感ずるかという、そういう時もあるれば、そうでない時もあり、あくまでもその本人のその状況における主観による。

保障性

ゆとりは、それがないと直接的に支障をきたすというよりも、あれば安心という保障として、予備として、あるいは調節弁としての「余裕」である。

肯定的価値性

ゆとりは望ましいという肯定的価値を含む。心をなごやかにするゆとり、美を求めるゆとりとは言いが、「悪を働くゆとり」とはあまり言わない。

このニュアンスについて、土居は『「ゆとり」という概念には価値が含まれる。「ゆとり」は価値のあることとして、我々日本人は大変尊重する。』（土居健郎「ゆとりについて」、松田 所収「ゆとりについて」p.126）と述べている。また稲垣も、『「ゆとり」という言葉は何か望ましく、快いひびきを伝え、我々の心の奥深いあこがれにこたえてくれる……「心にゆとりをもちたい」「ゆとりある暮らしがしたい」「ゆとりをもって試合に臨みたい」などと我々が語るとき、「ゆとり」という言葉は何か人生にうるおいを与えるもの、人間的な豊かさをさし示している。』（稲垣良典「ゆとりと恵み」、松田 所収「ゆとりについて」p.210）と記している。

自由裁量性

ゆとりは、好きなように使える、使いたいように使えるという自由裁量のニュアンスを有している。買いたいものが買える、したいことができる、やるべきことが決まっているのだが、ほかの事をやっても良い自由、そこから離れる自由などが「ゆとり」には含まれる。

相対性

ゆとりは、相対的な概念である。ゆとりは、あることがらや願望が成立するために必要な最低（小）限の条件に対しての余裕である。あることのためには、必要な条件が自覚されていて、それを余裕をもって満足させることができる」と認識したときに「ゆとり」となる。したがって、目的やなすべきことがはっきりしないまま、単に時間がある、スペースがあるなどだけではゆとりがあるという表現は適当ではない。

V まとめ

「ゆとり」という言葉は、「余裕」「窮屈ではない」「やすらぎ」の意味を持つ比較的新しい言葉であり、leisure、something to spare、latitude、leeway、elbowroom、breathing spaceなどと英訳されている。しかし、「余裕」や「窮屈ではない」という意味合いでの使い方に比べ、「くつろぎ」「leisure」という使われ方は少ない。「ゆとり」という言葉は、主観性、保障性、肯定的価値性、自由裁量性、相対性などのニュアンスを持つ。

引き続き「ゆとり」の構造化に向けて研究を進めたい。次回は、「くつろぎ」としての「ゆとり」に注目し、leisureとの類似と差異などについて報告したい。

主な参考文献

- 東京大学公開講座「ゆとり」東京大学出版会 1989
- 松田義幸編「ゆとりについて」誠文堂新光社 1987
- 通商産業省生活産業局編「ゆとり社会の基本構想」1991
- 経済企画庁編「生活大国5ヵ年計画」1992
- 土居健郎「表と裏」弘文堂 1985
- 西野 仁 平成 11～13 年度科学研究費報告書「中学生の一週間の生活リズムとゆとりの構造について」2002
- 西野 仁他 2002 年度東海大学総合研究機構プロジェクト研究「レジャー（ゆとり）の概念とその実態」2003